

## 令和6年度外部評価会 集計表(農業者用)

所属名: 北薩地域振興局農政普及課出水市駐在

課題名③ 花きの生産安定と経営発展に向けた技術改善支援						
項目	評価の視点	評価結果(人)			外部委員からの 意見・提言	意見・提言等に対する改善策や 普及指導計画への反映等
		適当	概ね 適当	要 改善		
課題の 設定	①農業者や地域が必要とする課題であるか	6	1	0	・高温対策必要 ・出水地区の花き生産概要を見ると、緑化樹に関する課題も取り上げて欲しかった。	・緑化樹についても、病害虫対策や新規品目導入などについて関係機関と連携して支援をしており、引き続き取り組みたい。
対象の 選定	②課題に対して対象(農業者、地区)の選定は適切であるか	5	2	0	・高温対策必要 ・対象生産者農家数が少ないと思われるため、大賞選定は適切である。	・今後も効果的な活動になるよう、適切な対象選定に努めたい。
活動体制・活動 方法	③関係機関とうまく連携して活動しているか	6	1	0	・質疑応答で、対象農家の意見を聞いたが、良き関係が築かれていると感じた。 ・農協、経済連と連携している。最新の遮光資材の提案もしてある。	・引き続き、園芸振興協議会を通して、関係機関との連携と計画的な活動に取り組みたい。
	④活動(活動方法、時期、手段)は適切であるか	5	2	0		
	⑤専門的な技術・情報を活用して効果的な活動が行われているか	5	2	0		
活動の 成果	⑥農業者や地域・産地等の育成や成長に効果が上がったか	6	1	0	・病害虫防除できているのがすばらしい。	・効果が持続できるよう技術の定着に努めたい。
活動の 波及性 と改善	⑦他の課題や他農業者、地域への波及性があるか	6	1	0	・遮熱資材の光反射型や赤外線反射型などは、他のハウス栽培農家にも有効のように思った。	・実証成果等については、他地域、他部門とも情報交換等を行い、情報収集、成果の普及に努めたい。
	⑧結果が十分でないものは今後の対策が考えられているか	5	2	0		

## 令和6年度外部評価会 集計表(関係者用)

所属名: 北薩地域振興局農政普及課出水市駐在

課題名③ 花きの生産安定と経営発展に向けた技術改善支援						
項目	評価の視点	評価結果(人)			外部委員からの 意見・提言	意見・提言等に対する改善策や 普及指導計画への反映等
		適当	概ね 適当	要 改善		
課題の 設定	①課題は地域の農業振興上、重要な課題であるか	7	1	0	・安定生産に向けた重要な課題である。 ・地域の生産者の抱える課題を明確に捉えている。	・重要課題である高温対策、病害虫対策を中心に今後も課題解決に取り組みたい。
対象の 選定	②課題に対して対象(農業者、地区)の選定は適切であるか	7	1	0	・適切である。	・今後も効果的な活動になるよう、適切な対象選定に努めたい。
活動体制・活動 方法	③関係機関と連携して活動しているか	6	1	0	・良い意見が出た。指導活動大事。 ・部会等で支援方策や技術内容の検討し取り組みを行っている。 ・関係機関との連携が図られている。	・引き続き、園芸振興協議会を通して、関係機関との連携と計画的な活動に取り組みたい。
	④活動(活動方法、時期、手段)は適切であるか	7	1	0		
	⑤専門的な技術・情報を活用して効果的な活動が行われているか	8	0	0		
活動の 成果	⑥農業者や地域・産地等の育成や成長に効果が上がったか	5	3	0	・農薬の防除体系の見直しにより散布回数が減少し労力軽減がはかられている。また、高温対策による出荷率の向上もはかられている。 ・遮熱資材については、他の施設品目字にも情報提供を願いたい。	・病害虫対策について、効果が持続できるよう技術の定着に努めたい。 ・高温対策については、品目、作型等を広げ改善に取り組みたい。
	⑦指導対象が積極的に課題解決にあたるようになったか	5	3	0		
活動の 波及性 と改善	⑧他の課題や他農業者、地域への波及性があるか	6	2	0	・高温対策課題が多い。 ・研究会において、技術情報を共有し普及をはかっている。	・実証成果等については、他地域、他部門との情報交換等を行い、情報収集、成果の普及に努めたい。
	⑨結果が十分でないものは今後の対策が考えられているか	4	4	0		

課題名 花きの生産安定と経営発展

花きの生産安定と経営発展に向けた技術改善支援

成果の要約

- 1 キクのクロゲハナアザミウマ対策において、効果的な防除体系の確立に取り組み、被害の低減と散布労力の軽減を図った。
- 2 ユリの高温期対策において、優良品種選定や遮熱資材の利用およびヒートポンプを活用した夜冷の実証に取り組んだ結果、前年に比較して、出荷率・上級品率・単価が向上した。
- 3 生産者組織の研修会を活用して、効果的な病害虫防除対策や花き類の高温対策技術に関する技術の普及を図った。

1 対象

- (1) 出水地域キク生産者
- (2) JA 鹿児島いずみ東事業所花き部会

2 課題を取り上げた理由

- (1) 近年、花き情勢が厳しい中、病害虫の多発や夏場の高温により生産性が低下し、経営に影響している。
- (2) 花き農家の経営安定、産地維持のためには、栽培の課題解決により生産性向上を図る必要がある。

3 活動の内容及び成果

- (1) 支援体制の整備  
園芸振興協議会出水支部花き部会で、農家支援方策や技術内容、モデル農家の選定等について検討し、連携して支援を行った。
- (2) キクのクロゲハナアザミウマ防除対策  
ア 農薬の散布体系の見直し  
試験研究情報を基に定植時の粒剤利用と害虫の発生とキクの生育に合わせた防除体系を提案した結果、散布回数・殺虫剤数が減少し、防除労力を軽減できた。

表 1 実証ほの農薬の散布状況

	改善前 (R4)	改善後 (R5)
農薬散布回数	13回	10回
うち殺虫剤数	17剤	11剤
うちネオニコチノイド*	9剤	0剤

- イ 耕種の防除の推進  
母株や育苗時の防除の徹底によるほ場への害虫の持ち込み防止や除草や収穫残渣、整枝残渣等の蒸し込みによる発生源の除去などの耕種の防除を指導した。

- ウ 防除対策の取り組み結果  
農薬の散布体系の見直しや耕種の防除の推進による発生源の除去により、改善モデル農家では周年を通してクロゲハナアザミウマの被害を抑えられるようになった。

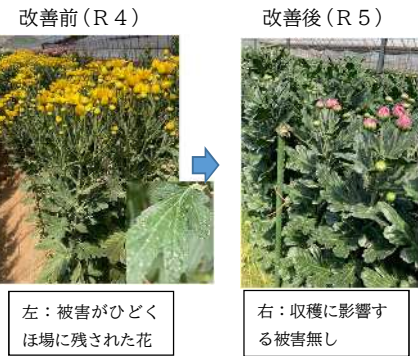


図 1 実証ほ被害発生の状況

- (3) ユリの高温対策  
ア 優良品種の選定  
延べ 20 品種 17 作型の現地栽培を調査し、草丈が伸び高温障害が少なく、市場性の高い品種の選定に取り組んだ。

- イ 遮熱資材の実証  
遮熱資材の実証ほを設けた結果、慣行の遮光資材に比較して、明るさを確保しつつ地温や植物体の温度をより低下させる効果を確認できた。  
梅雨期を経過する L A ユリ栽培又はオリエンタルユリの生育後期での利用に有効と考えられた。

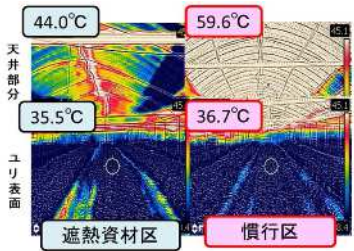


図 2 サーマカメラによる温度調査

- ウ ヒートポンプを活用した夜冷の実証  
夜冷による草丈の伸びや花数の増加などの品質向上効果が確認できた。  
また、電力使用量から経費を試算し、経済性の検討を行った。  
夜冷方法や管理の改善点が残ったが、実用性が期待できたことから、今後は、作型を広げ、検討を行うこととした。

- エ 高温対策の取り組み結果  
対策前年度に比較して、8～9月の出荷率、品質（L 以上品率）、単価が向上した。

表 2 8～9月 L A ユリ出荷実績

	対策前(R5)	対策後(R6)
出荷率	77%	90%
L 以上品率	35%	65%
平均単価	68 円	86 円

- (4) 技術の普及  
花き生産者組織の研修会で病害虫対策や高温対策の実証経過や技術情報を提供し、技術の普及を図った。



高温対策技術に関する研修会（R 6）

4 今後の課題

- (1) 病害虫対策  
「農業に偏らない効果的防除技術」の普及と実践支援
- (2) 高温対策  
手法の改善、実証の継続、実践支援
- (3) その他技術改善の取り組み  
土壌環境の改善等

5 発表者